

第4回受賞 平成26年(2014年)

受賞テーマ

「PD-1抗体によるがん免疫治療法の発見」

<所属・職位は受賞当時>

- <代表者> 本庶 佑 (京都大学大学院医学研究科 免疫ゲノム医学講座 客員教授)
縣 保年 (滋賀医科大学医学部 生化学・分子生物学講座 教授)
石田 靖雅 (奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 准教授)
岩井 佳子 (産業医科大学医学部 分子生物学講座 教授)
岡崎 拓 (徳島大学疾患プロテオゲノム研究センター 教授)
西村 泰行 (滋賀県立成人病センター研究所 研修員)
湊 長博 (京都大学大学院医学研究科 免疫細胞生物学 教授)



第4回受賞研究テーマ『PD-1抗体によるがん免疫治療法の発見』に関する研究成果として、がん治療において従来のサイトキニン剤や、この十数年新たに使用され出した分子標的薬とも異なり、免疫チェックポイント阻害剤という全く新しい抗がん活性を示す画期的な新薬を世界で初めてもたらしました。

受賞された先生方は、PD-1発見から臨床応用まで一貫してトランスレーショナルリサーチを主導しており、目覚ましい成果を上げられました。PD-1抗体の成功は、がんにとって免疫寛容がいかに重要であるかを示すものであり、近年がん免疫療法は革新的かつ欠かすことのできない主たる治療法の一つとなっており、世界中のがん患者に多大な福音となっています。こうした功績により、2018年に本庶先生はノーベル医学・生理学賞を受賞されました。